議長定例記者会見　会見録

日時：平成２９年８月７日　１０時３０分～
場所：全員協議会室

１　発表事項
　〇三重県議会インターンシップ実習生の決定について

２　質疑項目
　〇三重県議会インターンシップ実習生の決定について
　〇内閣改造について
　〇衆院の小選挙区について
　〇選挙区調査特別委員会について

１　発表事項
　〇三重県議会インターンシップ実習生の決定について
（議長）おはようございます。ただ今から、８月の議長定例記者会見を開催させていただきます。本日は、三重県議会インターンシップ実習生の決定について、発表させていただきます。このことについては、平成２１年度から実施しているところですが、本年度は、２名の方を実習生として受入れることといたしました。お手元の資料をご覧ください。受入れを決定した実習生は、北海道大学大学院の岡田雅文さん（２２歳、男性)、同志社大学大学院の川端健司さん（４５歳、男性）です。なお、同志社大学大学院から実習に来ていただくのは、初めてとなります。実習期間は、岡田さんについては、９月６日（水）から２０日（水）までの１０日間、川端さんについては、９月１２日（火）から２０日（水）までの６日間となっております。実習内容は、県議会の取組及び業務内容の聴き取り、委員会及び本会議の傍聴、議員との対話・交流を通しての意見発表などを予定しています。実習生には、今回の実習を通して、地方議会への理解を深めていただくとともに、今後のキャリア形成にもつなげていただければと考えております。なお、実習の開始に当たっては、私と副議長から実習生に受入書の交付を行う予定です。この交付の日時及び場所は、別途ご連絡いたします。私からは以上です。

２　質疑応答
　〇三重県議会インターンシップ実習生の決定について
（質問）今回、応募は何人あったのでしょうか。

（議長）２名です。

（質問）この２人ということですね。

（議長）はい。

（質問）どのようなことを研究されていて、どのようなことに具体的に関心を持たれているようでしょうか。

（議長）北海道大学の岡田さんについては、地方における観光政策の研究というのをテーマとしてお持ちでございます。川端さんについては、社会人経験が豊富でございまして、大学院生になる前に若年ニートの社会への移行支援をしてみえました。そうした経験を生かしながら、いわゆる議会がニート、引きこもり、そういったことに対する支援をどうしているか、意見交換を通じて今後の自分の活動の参考にしたいというようなレポートを書いていただいておりますので、そういった目的でお二人は来ていただけると思っております。

（質問）そういった点を踏まえて、議長として三重県議会のどのようなことに理解を深めてもらいたいかというところについて、いかがでしょうか。

（議長）それは議員に対して僕がお願いする内容ということですか。

（質問）そうですね。

（議長）それぞれのテーマをお持ちですから、当然のことながら一般的な議会の傍聴だとか、それだけでなく、最後には必ずレポートを書いていただきます。そのレポートにどういったことを研究したいかということを直接実習生の方からお聞きし、それに要望に応えられるように、例えば、ニート引きこもりでございますから、健康福祉の常任委員長さんと話をする、場合によったら、執行部の皆さん、担当の方と意見交換する場を設けるとか、実習生の希望に沿える形の対応は議会としてもしていきたいと思っております。そしてその結果が、また私たちに意見として還元されれば、議会としても有意義だなと期待しているところであります。

○内閣改造について
（質問）内閣改造がありまして、どの程度地方に影響があるかわかりませんけれども、何かご所感があれば。

（議長）３日に内閣改造がありました。見せていただいておる中ではベテランさんが配置された内閣だなあというのがまず一つの感想でして、それぞれの閣僚の皆さんに対する所見というのは能力も人柄も存じておりませんので、そこらへんは水谷副議長にお聞きいただければと思います。ただ、私としての希望はやはり国民の声、地方の声をしっかりと耳を傾けていただける政府であってほしいというのが私の期待でございます。

（質問）基本的には安倍政権がですね、やや支持を失った中での改造となったわけなんですけど、そのあたりについてはどうでしょうか。

（議長）国民全般の支持率が随分いろんな経過があって、下がりましたよね。内閣改造された後、横ばいという表現もあったし、少し伸びたという報道も見ております。そうした中で、一定の期待は国民の皆さんも持ってみえるんでしょうけど、やっぱりしっかりとこれからの実績に応じて国民の皆さんは判断されていくんだろうなと思っております。

（質問）副議長はいかがでしょうか。

（副議長）今議長がおっしゃったように、安倍第三次内閣としては安定した内閣になるのではなかろうかと。その中でも特にいろいろ経験豊富な方がそれぞれの大臣になってみえる。そしていろんな特徴のある方がなってみえますので、ある面では心配されている人もおりますけど、私としては国民の信頼をこれから得ていくためには非常に良い内閣ではなかろうかというふうに思っております。特に外務大臣の河野さんなんかはいろいろと言われることもありましたけども、大きな期待を持っていますし、岐阜の野田総務大臣もですね、次回は必ず総理選に出ると言ってみえますけれども、現在の安倍内閣においては相当な期待の持てる総務大臣ではなかろうかと思っておりますし、また小野寺防衛大臣にしても、いろいろ問題があった後ですから、こういったものもしっかりと対応していかれる大臣であるというふうに思っておりますので、大いに私としては期待しておりますし、また国民の信頼を勝ち得ていくのではなかろうかというふうに思っております。

（質問）自民党に対する信頼は失われているかと思うのですが、そのあたりについてはいかがでしょうか。

（副議長）今までもよくいろんな場所で言われておりましたように、森友、加

計学園が問題でいろいろ信頼がなくなっていった。これは安倍総理の反省の中にもありましたけどね。そういったものをこれからきちっと丁寧に対応することで勝ち得ていくと思っております。

〇衆院の小選挙区について

（質問）国政ですけども衆議院議員の定数削減に向けて、三重県内でも一減ということになりましたけれども、民進党と自民党でそれぞれ立候補予定者の顔ぶれが一定決まったと思うのですけれども、それを受けた感想をお願いします。

（議長）国の選挙制度ですから、基本的にはそれこそ人口を基本として、議論がされて、あの区割りができたわけですので、三重県議会として所感というのは難しいと思います。ただ当然のことながら、三重県民の声を国へ届けていただく方が５人から４人に基本的にはなったわけですから、そういう面では残念ですけれども、次回の選挙で当選されるであろう方がしっかりと三重県の声を今まで以上に頑張って届けていただきたいなあというふうに期待しています。

〇選挙区調査特別委員会について

（質問）選挙区調査特別委員会で、まだどうなるかわかりませんけど、パブリックコメントを実施するという話が出ておりますが、従来でいうとパブリックコメントというのはほぼ決まったものについて最終的に県民の方の意見を聞くという形でやる中で、今回もし実現すれば通常とは違うような議論の形になるかと思うのですけど、そこについては何かご所感はありますでしょうか。

（議長）三谷新委員長さんが今選挙区調査特別委員会でしっかりと議論をいただいておるところでございますので、パブリックコメントに対する是非みたいなのは私の方からは差し控えさせていただきたいと思います。ですから、議論の経過の推移を見守っていきたいというのが今の私の立場です。

（質問）ご自身もご苦労された中で新たな局面になっているわけなんですけど、議論はどのように見ていらっしゃいますか。

（議長）ですから、さっき申し上げたとおり推移を見守るしかないなと思っております。

（質問）それ以上のコメントはないということですね。

（議長）はい。

（質問）わかりました。

（　以　上　）　１０時４２分　終了